



マンドリーノ・ブリランテ

第10回演奏会

北とぴあ・さくらホール

2024年6月1日(土)

## ご挨拶

本日は、ご来場いただきまして ありがとうございます。

イタリアを起源とする中世ヨーロッパで興隆したマンドリン音楽も、近年衰退していく中で、遺された素晴らしい楽曲を、皆様にも聴いて頂きたいとの思いで始めた演奏会も、今回で10回目を持つことが出来ました。これも偏に、団員のご家族のご協力と、ご来場の皆様のご支援の賜物だと心より御礼申し上げます。

団員も高齢化してきていますが、新しい入団者に期待しながら、より一層のマンドリン音楽の追求に励みたい所存でございます。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

では、新緑の午後の憩いのひと時を、ごゆるりと マンドリン音楽で お楽しみください。

なお、今般、ホームページを立ち上げましたので、お立ち寄りください。

マンドリーノ・ブリランテ一同

マンドリーノ・ブリランテ ホームページ <https://m-brillante.com/>

## プログラム

### 第1部 指揮 石井明人

マンドリン讃歌フローラ A.Cappelletti

山吹く風 セレナテルラ A.Morlacchi

東洋の印象 第二組曲 A.Amadei

パッサカリア C.F.Gounod/ J.Bosch

オアシスにて アラビア風間奏曲 E.Marti

マンドリンオーケストラの為の 群炎1 熊谷賢一

### 第2部 客演指揮 澤田 昇

劇的序曲 幻の岩 F.Popy/M.Maciocchi

マリニータ スペイン風行進曲 C.Coletta

第2ギリシャ狂詩曲 N.Lavdas

我が哀しきギター P.Silvestri

山河緑照 藤掛廣幸

## 曲目解説

☆ Inno Manolinistico”FLOA” マンドリン讃歌フローラ

Arrigo.Cappelletti (アルリーゴ カペルレッティ) 1877~1946

作者は、イタリアのコモで生まれ、コモをはじめ、各地の音楽院でピアノ、オルガン、作曲法、吹奏楽などを修学した。コモでは、聖フェデーレ教会のオルガニストに就任し、数々のオルガン曲の作品がある。また、マンドリンでも、多数の作品がある。本曲はコモのマンドリン合奏団「フローラ」の指揮者となって、同団に贈ったマンドリン讃歌であり、当時としては珍しいマンドリン合奏に対位法を駆使した作品となっている。  
(中野二郎いるぷれっとろより)

☆ マンドリンオーケストラの為の 群炎I 熊谷賢一 1934~2017

作者は横浜に生まれ、愛知学芸大学卒業後、作曲、指揮活動を開始、ドラマ、映画、舞踊、室内楽、合唱と、幅広い活動を続けてきた。マンドリン合奏には実験的な音楽から平易なアンサンブル用の作品まで多くの楽曲が残されている。

本曲は、作者にとって初期のマンドリン合奏のための作品で、東海学生マンドリン連盟演奏会で1971年に初演された。

群炎とは、作者はじめ、演奏する一人ひとり、また、聴いて下さる方々の小さな命の炎が、音楽を通じて、より豊かな、より人間的な心の結びつきまで広がってほしいという願いを託した作者自身の造語である。前打音を伴う撥弦音に始まり、日本の5音音階である主題の旋律は、雅楽のような音響を作り出している。  
(concordia解説・作者letterより抜粋)

☆ Le Rocher Fantome OuvertureDamatique 劇的序曲 幻の岩

Francis Popy (フランシス ポピー) 1874~1928

編曲：Mario Maciocchi (マリオ・マチョッキ) 1874~1955

作者は、フランスのリヨン生まれ、パリのオーケストラでオペレッタの指揮で活躍。作曲家としては400作品を書いたが、主に19世紀末から第一次世界大戦勃発までのパリが反映した華やかな時代、いわゆるベル・エポックの典型的な作品。

アルプスのマッターホルンのような岩山を想わせるような作品で、簡素で明快な重音によるオーケストラレーションは、あくまでも強く見事に表現されている。

原曲は軍隊のブラスバンドの為に作曲されたものだが、マチョッキの編曲によって原曲の雰囲気壊すことなく、マンドリン合奏のために作曲されたように仕上がっている。

(Ensemble Hikone 曲目解説 参照)

☆ 山河緑照

藤掛 廣幸

1949~

作者は岐阜県出身。愛知県立学芸大学卒業、同大学院修士課程修了。1977年に、世界三大コンクールのひとつであるエリザベート王妃国際音楽コンクール作曲部門で、日本人初のグランプリ受賞。管弦楽、吹奏楽、ミュージカル、マンドリン、ピアノ曲・合唱曲など多岐にわたる作品がある。

本曲の原曲は、1999年岐阜県で行われた「国民文化祭/邦楽の祭典」の為に、琴、尺八、三味線、十七弦による計100名の邦楽合奏のために作曲、作者の指揮により初演された。「山の緑が川の水面に美しく照り映える、、、というイメージのタイトルが最初に出来上がり、メインテーマが湧き上がってくると作曲はスムーズにはかどって行きました」大好評だった原曲を基にして、マンドリンオーケストラの機能を生かすよう工夫して新たに、大自然賛歌として書き直したのが、この作品である。

(ウッキペディア及び作者スコア記載文より)

# マンドリーノ・プリランテ 第10回 演奏会 出演メンバー

	第1部 指揮者	石井 明人	
	第2部 客演指揮者	澤田 昇	
	コンサートマスター	山崎 了三	
第一マンドリン	◆ 山崎 了三	石橋 健嗣	伊藤 和子
	植木 節子	太田 雅子	酒井かほる
	横川 安世	♣ 内堀 均	
第二マンドリン	◆ 南 郁代	石井 明人	伊藤 孝子
	大宮 康典	島崎 美津江	白須 健一
	白須 宏	山崎 知子	♣ 豊田さゆり
マンドラテノール	◆ 平田 千恵子	石井 尚治	大久保 健
	村崎 薫	山田 忠子	和田 正子
	♣ 斎藤 紀子		
マンドロンチェロ	◆ 望月 洋子	田代 寿美代	♣ 松岡 博
ギター	◆ 市川 康子	櫛山 寿夫	山口 雅俊
	♣ 宇都宮 誠	♣ 河邊 敬之	♣ 前島 昌枝
	♣ 須賀 順一		
コントラバス	♣ 成澤 良洋		
パーカッション	♣ 吉池 穰	♣ 本間 雄也	♣ 近藤 寛斗
アナウンス	♣ 平出 千明		

[ ◆ パートリーダー  
 ♣ 賛助出演

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

団 長 石井 尚治

実行委員長

山崎 了三

副委員長

市川 康子

ステージマネージャー

神 敏子

(プログラム編集:石井尚治)

## 客演指揮者プロフィール

### 澤田 昇

日本大学マンドリンクラブでコンサートマスターを歴任。マンドリンを宮田蝶子氏に師事、指揮を宮沢秀雄氏に師事。現在、川越マンドリンクラブの指揮者並びにコンサートマスター。主にホール等で演奏活動しているが「一人でも多くの人にマンドリンを聴いてもらいたい、弾いてもらいたい」という思いで、慰問演奏や川越周辺のマンドリンクラブ五団体を指導するなど、精力的に活躍している。